

# 文章題のめあてとまとめ 解決の道筋

## —— 4年「何倍でしょう」(啓林館) について ——

(注: ページ番号は, 平成 27 年啓林館のもので。問題文は著作権の関係で掲載できません。お手数ですが, 教科書を参照してください。)

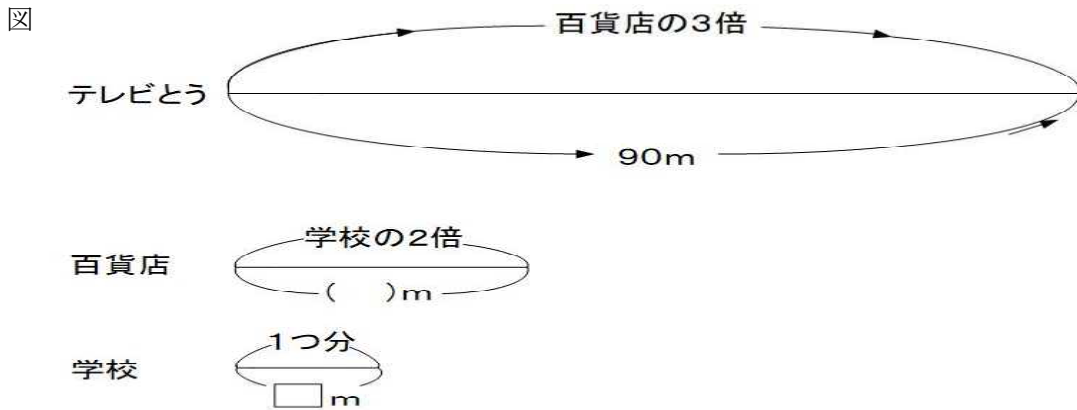
上 p.40 ①  $\square \times a \times b = c$  の問題

(  $c \div b \div a \Leftrightarrow c \div (b \times a)$  ) (除法結合基礎)

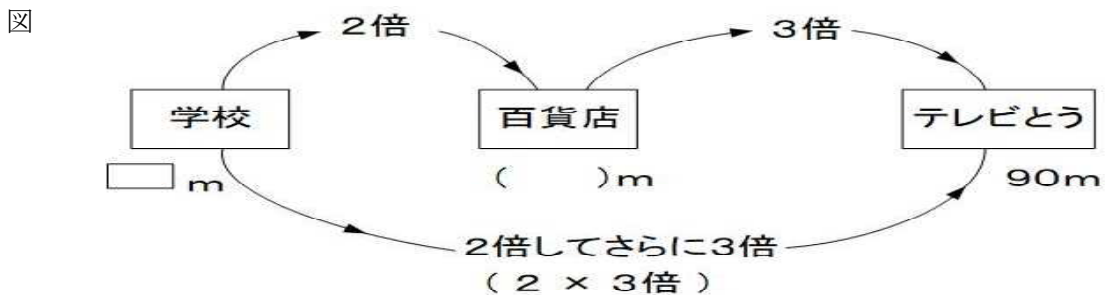
3年上 p.110 ①の  $\square \times a = b$  の問題 と, 3年下 p.14 ①の  $a \times b \times c =$  の問題 と,

本時の  $\square \times a \times b = c$  の問題 とを比べることで, 次のような一般化されためあてをつかむ。

**めあて**  
かける数が2つになった時の, もとの数の 求め方を考えよう。



めあてを振り返って, わる数が2つになっても, 何の何倍か(くらべる数ともとにする数の関係)を分かりやすくする必要があるので, 図をかき直す。



式 ・  $90 \div 3 = 30$        $30 \div 2 = 15$       答え 15 m

・  $2 \times 3 = 6$        $90 \div 6 = 15$       答え 15 m

**まとめ**  
かける数が2つになった時の, もとの数を 求めるには, じゅんに計算したり, 何倍になるかをまとめてから計算したりする。

★ p.40 を順々にわるページ, p.41 をまとめてわるページとしたりせず, 一方の解き方ができた児童に他の解き方を考えるように促したり, 学級全体で話し合う場面で, 他の解き方に触れたりして, しだいに乗法の結合法則の基礎経験が主体的にもてるようにし, それぞれの解き方を説明する場面では, 対話的な学びが進むように理解を補ったり, 多様に考えることを称揚したりすることが望ましい。